

経営計画の着実な推進

1 広島病院 (1) 評価表(その1)

①【別紙 A3】

1 具体的取組

番号	取組方針	取組項目	実績総括	自己評価	委員会評価(案)	委員会意見(取りまとめ案)
1 政策医療機能						
1	救急機能の強化	略	略	◎		救命救急センターの体制の一層の充実が図られ、心肺停止患者等の重傷者を数多く受け入れるとともに、受入拒否件数は減少していることから、高く評価できる。
2	周産期医療提供体制の強化	略	略	◎	◎	病院には無い小児感覚器科や小児腎臓科を有する成育医療センターを整備し、受入れ患者数が増加している。難易度の高い医療を好成績で実施しており、高く評価できる。
3	がん診療機能の強化	略	略	○	○	国立がんセンター中央病院と連携した臨床腫瘍科や緩和ケア体制の充実が評価できるが、化学療法・放射線療法等への取り組みによるがん患者のQOL向上の可視化や5年生存率の調査・公表などに取組む必要がある。
2 医療人材の育成・派遣機能						
4	人材の確保・教育・派遣	略	略	○	○	勤務環境整備により医師のモチベーションを向上させており、積極的に人材育成に努めている。と認められる。初期臨床研修医のマッチング率は100%で評価できる。広島県内の医療施設に対する指導的牽引力及び派遣機能の発揮に期待したい。
5	医療の安全と質の向上	略	略	○	○	DPCデータのベンチマーク分析を医療の質的向上に役立てており、地域医療係数や機能評価も好成績である。患者側が治療見通しを持ってから、クリニカルパスの適用率を上げていくべきである。
3 患者サービスの向上と経営の効率化						
6	患者サービスの向上	略	略	◎		今後は広報を更に充実させるとともに、スタッフの対応を取組項目に加え、患者意見を着実に改善していくなど、患者目線の取組推進を求める。

委員評価	委員意見(各意見)
◎4 ○1 △1	<ul style="list-style-type: none"> ◆総合的な対応として県下の病院をリードしている。量的充足が成された。 ◆体制強化はなされているが、重要疾患である心筋梗塞の治療成績が非常に悪い。 ◆救命救急センターの医療提供体制は充実し、重傷者や心肺停止患者を数多く受け入れるなどその実績も秀でており、高く評価できる。 ◆受け入れ拒否件数の減少を評価。 ◆当直8名+専門医へのオンコール等、充実した体制が取られているように思われる。
◎5 ○1	<ul style="list-style-type: none"> ◆難度の高い医療を好成績で実施していることは高評価。 ◆政策医療としてふさわしい活動と思われる。 ◆成育医療における体制と実績は、名実ともに全国トップクラスであり、高く評価できる。 ◆センター化し、西日本の中心になっている。 ◆成育医療センターを整備され、患者等の受け入れが伸びている点はすばらしい。小児科に小児感覚器科や小児腎臓科等他にない診療科を設けていることも高く評価できる。しかし、県内唯一の「病棟型こども病院」として県民の期待に十分応え切れているか、小児科全般が充実したものとなっているか少し疑問を感じる。
○5 △1	<ul style="list-style-type: none"> ◆がん患者のQOL向上は達成しているだろうか。 ◆化学療法・放射線療法への更なる取り組み。 ◆5年生存率に関しては、遑て調査すべきである。 ◆国立がんセンター中央病院との連携のもと、臨床腫瘍科と緩和ケア科とが中心となって展開している地域緩和ケアは、全国をリードしており、高く評価できる。 ◆緩和ケア体制の充実が図られている。上記2関連で、小児がんについて言及すらされておらず残念。
◎1 ○5	<ul style="list-style-type: none"> ◆人材確保については、広島県内の医療施設に対して指導的牽引力を発揮してほしい。後期研修医の確保に走るよりも、広島圏域全体の利益を優先すべきである。派遣機能の強化は優れているので、今後さらに推進してほしい。 ◆初期臨床研修医の応募倍率3.6倍およびマッチング率100%は、高く評価できる。また、勤務環境整備に対する積極的な取り組みは、医師のモチベーションを向上させている。専門・認定看護師はすでに10名配置し、今年度はさらにその増員と各種認定医療技術職の養成を計画するなど、積極的に人材育成に努めている。 ◆マッチング100%と海外研修は評価できる。 ◆医師確保に関しては、取り組みが進んでいると思う。認定・専門看護師、薬剤師及び技師の養成については、取り組みが始まったところのように見受けられ、これらについては今後に期待する。
○6	<ul style="list-style-type: none"> ◆DPCの地域医療係数は優れている。 ◆DPCデータのベンチマーク分析を医療の質的向上に役立てている。また、第三者評価としてのDPC地域医療係数は全国トップ5に、日本医療機能評価機構受審成績も広島県第1位にランクされている。 ◆モニター患者用マニュアルの整備を早く。 ◆医療安全の確保に向けた対策は、とても充実しているように思うが、クリニカルパスの適用率があまり高くないことが残念。必ずしも予定通りとならない場合でも、見通しが持てることは患者及び家族等のメンタルケアの視点からも大変重要ではないか。合同カンファレンスが年3回しかないというのは、意外。
◎4 ○1 △1	<ul style="list-style-type: none"> ◆患者との接点を増やそうとする姿勢が伺える。 ◆広報は更に充実の必要があるのではないかと。 ◆優れた取り組みを行っている。 ◆24時間営業のコンビニの開設や病室個室化の推進など、患者アメニティの向上に努めており、評価できる。 ◆利便性が上がることは利用者にとってもありがたいが、それよりも利用者側において病院に求めることは、(医療の質は当然第一として)スタッフの対応及び施設面の充実。スタッフの対応については取組項目とされていない。施設面に関し、特に外来受診の場合に気になる待ち時間や駐車場について、H14から患者アンケートがなされているが、未だにこれらについて厳しい点数であることから、患者アンケートの回答に基づいての改善に向けた対策が迅速に図られる体制があるのかに疑問が残る。取組内容の記載順自体、残念ながら取組の優先順位が患者目線を決められていないように感じられる。

経営計画の着実な推進

1 広島病院 (1) 評価表(その2)

番号	取組方針	取組項目	実績総括	自己評価	委員会評価(案)	委員会意見 (取りまとめ案)	
3 患者サービスの向上と経営の効率化							
7	経営の効率化	増収対策	略	略	◎	◎	全職種が積極的に取組んだ結果、医業収益は前年度に比べて約10.6億円増加しており、高く評価できる。
8		費用合理化対策	略	略	◎	○	前年度に対する医業費用の伸び率は9%で、医業収益の伸び率21%の半分以下に抑えられており評価できる。 民間手法の導入が図られているものの、医薬品の契約の統一化や診療材料・委託費の削減などは、取組が不十分と言え、質も担保しつつ更に努力してほしい。
9		経営機能強化	略	略	○		職員提案制度を設けるなど、職員の経営参画意識の醸成に取組んだ結果、19年ぶりの経常支黒字を達成したことは、高く評価できるが、病床稼働率はまだ改善できると予想される。
4 追加項目							
10	その他の取組	略	略	○	○	多くの職種による活発な院外活動や継続的な地域医療機関への個別訪問などの地域医療連携の強化への取組が評価できる。	
11	(2病院)協力状況	略	略	○		医師・臨床工学士による安芸津病院への診療支援は、評価できるが、十分とは言えない。共同購入は、効率化の取組を更に進め、成果を出してほしい。	

委員評価	委員意見 (各意見)
◎5 ○1	◆県病院にふさわしい(高度な医療を提供する)患者数の増加であるべき。 ◆全職種が積極的に取り組んでいる。 ◆さまざまな増収対策の結果、平成21年度の医業収益は前年度に比べて約10.6億円増加した。 ◆分析等、積極性が見られる。 ◆増収対策は結果に表れており、その努力は高く評価できる。
◎2 ○4	◆民間手法の導入が図られている点を高評価。 ◆安ければよいという訳ではない。質の検討も必要。 ◆医薬品の契約の統一化がまだ不十分である。 ◆平成21年度の医業費用は前年度に比べて約4.3億円増加しているものの伸び率は9%であり、医業収益の伸び率21%の半分以下に抑えられている。 ◆診療材料・委託費の削減が不十分。 ◆合理化に向けての取組が始まっていることは評価できる。ジェネリック医薬品への切り替え等、さらなる努力を期待する。
◎1 ○4 △1	◆病床稼働率はまだ改善できると予想される。 ◆経営機能の強化と職員の経営参画意識の醸成などの取組により、19年ぶりの経常支黒字を達成したことは、高く評価できる。 ◆職員提案制度はいい(取組だ)と思う。 ◆経営機能強化に向けた様々な取組がなされていることに敬意を表する。さらに、職員の方へ基本理念等の周知徹底が図られることを希望する。
◎2 ○4	◆職員の院外での活動が活発であることを高く評価した。 ◆順調に行っている。 ◆地域医療機関への個別訪問を継続的に実施し、地域医療連携の強化に努めている。また、多くの職種職員が対外的な公的活動や教育活動を精力的に行っており、評価できる。 ◆地域医療連携について努力されていることが伺える。 【委員会】紹介率等は、地域医療支援病院として十分クリアしている立派な数値である。
○3 △3	◆安芸津病院への協力は積極的か？ ◆共同購入はまだ不十分。 ◆今年度、医薬品の共同購入を開始したところである。医師・臨床工学士による安芸津病院への診療支援は、評価できる。 ◆共同購入の成果がまだ出ていない。 ◆協力的体制により、効率化は図られつつあるように思える。しかし、診療応援に関しては、必要があるもの全てについて応援体制が調っているとは評価できない。

2 取組結果

5 決算、目標指標						
12	収支改善、目標指標	略	略	◎	◎	目標指標10項目のうち8項目を達成し、結果として、19年ぶりの経常収支黒字を果たすなど、健全経営を達成していると言え、高く評価できる。

◎6	◆健全経営を達成している。 ◆目標指標10項目のうち8項目を達成し、結果として、19年ぶりの経常収支黒字を果たしたことは、高く評価できる。 ◆努力の結果が表れている。
----	---

総合評価						○	広島県下のリーディング・ホスピタルとして、また、地域医療の最後の砦として、地域社会に貢献しており、全体としては計画実現に向けて順調に進行している。 治療成績資料の充実と成績改善に向けて更に取組んでほしい。
------	--	--	--	--	--	---	---

◎2 ○4	◆全体としては計画実現に向けて順調に進行している。 ◆治療成績資料の充実と成績改善への高い欲求を持って貰いたい。 ◆地方公営企業法に定められている「公共性の確保」と「経済性の発揮」という自治体病院の使命に対する意識レベルは高く、広島県下のリーディング・ホスピタルとして、また、地域医療の最後の砦として、地域社会に貢献している。 ◆増収努力、高度医療を総合的に評価しています。 ◆全体的な努力及びそれに対する成果が見えることは評価できる。上記した個別課題について、さらに対策を講じることを希望する。
----------	--

経営計画の着実な推進

2 安芸津病院 (1) 評価表(その1)

1 具体的取組

番号	取組方針	取組項目	取組実績	自己評価	委員会評価(案)	委員意見 (取りまとめ案)
1 政策医療機能						
1	安芸津病院の機能検討	略	略	○	○	新たな方向性として掲げる「地域により密着した医療の提供」としてのプライマリケア・在宅医療(訪問看護)、慢性期医療、予防保健活動などは理解しやすく、地域ニーズにも合致している。 地域住民の受診動向調査を通じて地域の実情等を明確に把握するとともに、安芸津病院を存置する意義を踏まえた機能検討をすべきである。
2	政策医療の実施	略	略	○	○	広大・県立広島病院の協力のもと小児救急の維持・継続することが求められるが、現状においては可能な限りの対応をしている。 他の輪番制病院と協力しあいながら、ミニマムセキュリティを担保することに専念すべきである。背景にある高齢社会には、血管疾患への迅速な対応が望まれる。
2 医療人材の育成・派遣機能						
3	人材の確保・教育・派遣	略	略	△	△	安芸津病院の特色(県立病院であること、地域密着医療ができること)等を活かし、広島病院の初期・後期臨床研修プログラムにおける「地域医療研修の場」として将来的な人材確保の可能性とされたい。 広島病院との人事ローテーションや広島病院と一体化したリクルートを期待したい。
4	医療の安全と質の向上	略	略	○	△	住民と一体となった地域連携強化に努めており、地域住民からの信頼が改善していると認められる。 クリニカルパスの適用率、紹介率・逆紹介率等を高めることは、患者サービス向上にもつながるため、迅速な改善が求められる。
3 患者サービスの向上と経営の効率化						
5	患者サービスの向上	略	略	◎	◎	地域住民の意見を知るための取組やアンケート結果の実行、各種の情報提供手段など、患者-医療者のパートナーシップ醸成に努めており、評価できる。 患者ニーズの把握のために、地域代表との意見交換にも取組んでほしい。

委員評価	委員意見 (各意見)
○3 △3	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域住民の受療行動(把握)が不十分。 ◆病院基本理念に記されている「中核病院」は医療提供側の用語であり、住民にとってはどのような医療機能を有する病院なのかイメージしにくい。一方、新たな方向性として掲げる「地域により密着した医療の提供」はより具体的であり、その表現形としてのプライマリケア、在宅医療、慢性期医療、予防保健活動などは理解しやすく、また地域ニーズにも合致している。従って、今後は「地域まるごと医療」に、病院の新たな存在意義を見いだすべきであるとする。 ◆訪問看護など、地域ニーズに合ったサービス提供。 ◆機能を検討する方向性としては、①安芸津病院の現実から出発する視点とともに、②地域医療を担う県立病院として県が唯一存立させる意義を問う(いわば受け身の①の視点と比して)戦略的な視点も持つべきではないかと感じた。 ①に関しては、「検討結果」を出すにおいて、受診動向調査を初めとする地域の実情等との関連性・連動性がもう少し明確であるかと思われ。 ②根本的に県立病院として安芸津病院を存置する意義にまで遡って機能検討を行わなければ、安芸津病院を敢えて残したことについての県民の理解は得にくいのではないか。この視点はあまり表現されていない。
○5 △1	<ul style="list-style-type: none"> ◆広大・県立広島病院の協力のもと小児救急の維持・継続。 ◆小児医療体制はなんとか維持できているが、高齢社会を背景としているので、血管疾患への迅速な対応が高いレベルでできる必要がある。 ◆安芸津病院の存在そのものが「政策医療」であり、他の輪番制病院と協力しあいながら、ミニマムセキュリティを担保することに専念すべきである。 ◆小児夜間救急の体制や産科が無い等の現状では、公立病院として需要に見合った政策医療が十分に実施されていると評価しがたい。しかし、現状において可能な限りの対応がされていることは理解できる。
△6	<ul style="list-style-type: none"> ◆病院の機能が縮小されてきたので、人材確保の充実度が減少している。 ◆広島大学からの医師派遣が期待できない状況であり、広島病院との人事ローテーションによる医師派遣を期待したい。また、広島病院の初期・後期臨床研修プログラムにおける「地域医療研修の場」として安芸津病院を組み込み、研修医に地域医療を体験させることで、将来的な人材確保の可能性とされたい。 ◆広島病院と一体化したリクルートはできないのか。 ◆医師確保が難しい状況は承知しているが、手詰まり感を感じる。安芸津病院の特色(県立病院であること、地域密着医療ができること)等を活かした人材確保の取組をさらに模索されてはどうか。医療人材の育成についての具体的な取組が乏しいように思われる。 【委員会】臨床教育をしようという計画に対して、自己評価「△」は残念である。
○2 △4	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域住民からの信頼が改善している。 ◆「安芸津地域ふれあいサロン」や「安芸津ほっと安心ネットワーク会議」への参画や、地域夏祭りへの参加、あるいは、「安芸津病院を支援する会」の結成など、住民と一体となって地域連携強化に努めていることは、評価できる。 ◆医療安全確保の取組及び地域に向いてネットワークに参加していること等の取組は評価できる。クリニカルパスの活用事例の少なさ、紹介率・逆紹介率の低さ等は、患者サービスにつながる課題であり、迅速な改善が求められる。
◎3 ○3	<ul style="list-style-type: none"> ◆各種取り組みを継続してもらいたい。 ◆地域住民の意見を知るための取り組みを熱心に行っている。 ◆「医療公開講座」や「出前講座」の開催、地域の役場や団体の広報誌への寄稿、院内広報誌「四季だより」の発行など、患者-医療者のパートナーシップ醸成に熱心に努めており、高く評価できる。 ◆アンケート結果を実行している点を評価。 ◆地域との関わりを進められていることは評価できる。患者ニーズの把握のためには、アンケートや意見箱のみならず地域代表との意見交換も必要。

経営計画の着実な推進

2 安芸津病院 (1) 評価表(その2)

番号	取組方針	取組項目	取組実績	自己評価	委員会評価(案)	委員意見 (取りまとめ案)	
3 患者サービスの向上と経営の効率化							
6	経営の効率化	増収対策	略	略	○	○	勤務医数の減少に歯止めがかからず、医業収益は経年的に減少しているが、患者数の増加対策や病床利用率の向上、各種加算の取得や診療報酬改定への対応などに取り組んでおり、医師減少の中、入院患者数が増加するなど、一定の評価はできる。さらに、増収対策に向けて、入院患者の多角的な分析をすべきである。
7		費用合理化対策	略	略	○	○	医業費用は医業収益と同様に経年的に減少しているが、赤字基調となっているため、広島病院との共同購入や共同委託などを大胆に実施すべきである。
8		経営機能の強化	略	略	○		職員が「自律・自立」できるようなシステムを構築されたい。
4 追加項目							
9	(2病院)協力状況	略	略	○		広島病院からの一方向の支援であり、協力姿勢が見えない。このような取組のモデル病院になるように取組を強化すべきである。	

委員評価	委員意見 (各意見)
○4 △2	<ul style="list-style-type: none"> ◆入院患者の多角的な分析。 ◆全職域で取り組んでいる。 ◆患者数の増加対策や病床利用率の向上、各種加算の取得や診療報酬改定への対応などに取り組んだものの、勤務医数の減少に歯止めがかからず、医業収益は経年的に減少している。 ◆努力がなされていることは認められるが、今後具体的な「増収」が「取組内容」に記載できるようにすれば、なお良い。 【委員会】医師数が2名減っている(H22)が、医師1人あたり患者数は相当に増えている。
○4 △2	<ul style="list-style-type: none"> ◆広島病院との共同購入をさらに推進すべきである。 ◆医業費用は医業収益と同様に経年的に減少しているが、その縮小幅は医業収益のそれを下回り、結果として赤字基調となっている。 ◆大胆に共同購入・共同委託など実施すべき。 ◆費用合理化に向けた取組が始まったところのようなので、今後取組が進んでいくことを期待する。
○3 △3	<ul style="list-style-type: none"> ◆全職域で取り組んでいる。 ◆「押しつけ」ではなく、職員が「自律・自立」できるようなシステムを構築されたい。 ◆取組が始まったところのようなので、今後更に取組が進んでいくことを期待する。
○3 △3	<ul style="list-style-type: none"> ◆広島病院に対する協力姿勢が見えない。 ◆このような取り組みのモデル病院としてさらに取り組みを強化すべきである。 ◆広島病院からの一方向の支援にとどまっている。 ◆協力的体制により、効率化は図られつつある。しかし、診療応援に関しては、需要があるものについて応援体制が調っているとは評価できない。

2 取組結果

5 決算、目標指標						
10	収支改善、目標指標	略	略	△	△	経常収支も依然として赤字ではあるものの、前年度に比べて赤字幅が減少しており、勤務医不足という厳しい状況にあるものの、収支改善の努力は評価できるが、病床稼働率は更に大幅に改善できると予想できる。

○1 △5	<ul style="list-style-type: none"> ◆病床稼働率はさらに大幅に改善できると予想できる。 ◆平成21年度の病床利用率は前年度を上回り、平成22年度も8月現在、さらに平成21年度を上回っている。また、同様に、経常収支も依然として赤字ではあるものの、平成21年度・平成22年度は前年度に比べて赤字幅が減少しており、勤務医不足という厳しい状況にあるものの、収支改善の努力は評価できる。 ◆結果が出ていないとまでは言えないが、一定の努力はみられる。今後の取組に期待ができる。
----------	--

総合評価						<p>訪問看護の実施・輪番制病院としての二次救急医療の確保・患者-医療者のパートナーシップの醸成などの取組は評価できるが、その他については取組の成果及び課題に対する分析を行い、更なる努力が望まれる。急性期なのか、亜急性期に力を入れるかについて明確な方向性を出し、県立病院として積極的な指導性を発揮してほしい。</p>
------	--	--	--	--	--	--

○3 △3	<ul style="list-style-type: none"> ◆各種取り組みについては高く評価出来るが、県立病院としての指導性を考慮すると積極性を欠いていることから評価を下げた。 ◆地域からの信頼度を高めるために、血管疾患診療機能の強化がほしい。 ◆現状に対する客観的評価がなされ、病院が抱えている課題や問題は明らかとなっている。しかし、それらに対する対応策は、訪問看護の実施・輪番制病院としての二次救急医療の確保・患者-医療者のパートナーシップの醸成などを除いて、適切に実施されているとは言えず、さらなる努力が望まれる。 ◆急性期なのか、亜急性期に力を入れるか、明確な方向性を出した方がいいのではないかと思う。 ◆多くの分野で取組が始まったところで、今回は成果はともかく取組がなされたこと自体を評価した。今後、取組の成果及び課題について分析的な視点に立ち、結果の出る対応を進められることを期待する。
----------	---